中華圏のベストセラー作家・蔡氏が来日

「私をやめたい。でも今日くらいは笑ってみる」イベント

フォレスト出版

吉本ばなな氏と対談

チケットが即完売

吉本ばなな氏㊧と蔡康永氏

フォレスト出版は昨年12月に刊行した『私をやめたい。でも今日くらいは笑ってみる』の著者・蔡康永（ツァイ・カンヨン）氏と、同書のまえがきを書いた作家・吉本ばなな氏のトークイベントを2月3日、東京・中央区の野村コンファレンスプラザ日本橋で行った。有隣堂、誠品生活日本橋が共催。参加費は3500円だったが、定員130人の席は即完売。会場は熱気に溢れた。

『私をやめたい～』（本体1600円）は、中華圏で700万部を突破したベストセラー『蔡康永的情商課』の日本語版。著者の蔡氏は、中華圏で人気があるテレビ番組の司会者で、作家としても中国のオンライン書店「博客來」で「鬼滅の刃」（集英社）の作者・吾峠呼世晴氏と並んでベストセラー作家に選ばれている。

同書は情報があふれる社会で、SNSに振り回され、嫉妬、怒り、自己嫌悪、被害者意識、孤独感に苛まれる生きづらい日常を舞台にした人生エッセイ。自由なはずなのに窮屈な思いをする若者に、自分のために生きる方法をいくつものエピソードを交えて綴った。

蔡氏が以前から作品に魅せられていたという吉本氏に、まえがきを依頼して日本語版ができた。

フォレスト出版では初版6000部でスタート。20～40代の女性に反響を呼び、堅調な売行きを示しているという。

当日はフォレスト出版の太田宏社長、有隣堂の松信健太郎社長も駆け付けた。太田社長は版権取得の経緯を紹介した後、「この本はSNS時代に極めて重要なものである」と話した。これまで1万人以上の著名人にインタビューしてきたという蔡氏は、「地位や権力、才能をもつ人たちは成功体験を語りたがる。でも、最後に向き合わなければいけないのは自分自身。いい人生を送っているか、幸せなのかを感じるは自分次第」という。

人が変化を嫌うのは「同じことをしていれば死ないことが分かっているから」で、昨日と同じ日を過ごしたがるという。しかし、「人は死ぬ。死があるからこそ、生きる価値がある」とメッセージを伝えた。

吉本氏は「誰もが生きづらく思っている。子どもの頃、社会に触れて当惑した。その時に置いてきてしまったものを、大人になって取り戻したくなる。同書はそのハウツーではなく、その時々の自分に臨機応変に向き合える本」と話した。最後、「殺意をもって殺しにくるSNS」の恐しさを、綿矢りさ『パッキパキ北京』（集英社）の一節を読み上げて紹介。同書まえがきでは「自由自在に大空を羽ばたいて行こう」と記した。

著者見参

わたしの1冊

中小企業の収益向上へDX化提言

「バックオフィスDX」（マネジメント社）

「企業が抱える諸問題を迅速に解決して持続的な成長を支えるために、DX化を推進してほしい」という㈱ジャンガ・テックの劉桂栄（りゅう・けいえい）社長がこのほど、マネジメント社から『給料ゼロ円で24時間働くバックオフィスDX』を上梓した。

生成AI、QRコード、RFID、3Dプリンター、ロボットなど、様々なデジタル技術が社会や企業、日常生活を変えた。

中小企業においては、様々なコストが高騰するなかで経理、人事、労務、総務など「バックオフィス」といわれる業務のDX化が急務であるという。社内管理システムや人事労務業務は人的エラーが許されず、時には法律の知識も必要とされる。この分野の効率化を進めることで、優秀な人材を収益性の高い部署に配置させ、事業を好転できるというのが劉氏の考えだ。

ジャンガ・テックは2002年に創業し、電話回線からインターネットで繋ぐPOSシステム「ジャンガ・テック・コネクター」を開発して、IT産業に革命を起こした。さらに、人事労務システム「SURUPAs」を開発し、いまでは電鉄・建設・警備会社、小売・飲食店など約1060社と契約して120万人以上のユーザーを獲得している。

スマホやパソコンで勤怠管理ができる同システムによって、従業員のシフトで悩む現場責任者が、従来の仕事や顧客マーケティングに注力できるようになった。ある企業では、バックオフィス業務をDX化したことでコストは半減、業務効率と売上げは2倍以上になったという。

同書では、そんなDXの定義から導入するメリット、実践的な使い方を解説している。

同書を執筆した背景には、国内企業のうち99%が中小企業で、DXに取り組む企業はそのうちの1割に満たないという現状がある。

2018年、経産省は諸外国に遅れをとる日本を危惧して「DX推進ガイドライン」を策定。25年には人材、技術力が不足して「12兆円の損失が見込まれる」と警鐘を鳴らした。それでも、「世界デジタル競争力ランキング」（スイスの国際経営開発研究所調べ）で、日本は29位。

日本でDX化が進まない理由は、①人材不足、②具体的な効果が見えない、③予算がないなどがある。劉氏は「それ以上に、『変わりたくないという社員がいること、社長にITオンチが多い』こともハードルになっていると話す。

京セラの稲盛和夫名誉会長（当時）が、日本航空が会社更生法の適用を申請した2010年、同社の会長に就き、最初に手がけたのがバックオフィスのDX化だったという。

中小企業であればなおのこと、「DXを導入してコストを削減し、収益性を高めないともったいない」と話す。

本体1600円。（M）

トヨザキ社長の書評家的日乗

第78回 骨折

豊崎由美

骨折しちゃいました。食事会の帰り、地下鉄のホームに降りる階段を踏み外して、足首ゴキッ骨ボキッ。なんとか自力で帰宅したんですが、翌朝、足が見たこともないような色でパンパンに腫れ上がってたもんですから病院へ行き、松葉杖生活が始まったという次第です。

骨折は、これで2回目。初回は忘れもしない2002年6月4日、日韓共同ワールドカップ「日本対ベルギー戦」が開催された日でありました。よそ見運転で右折してきた軽トラックに跳ね飛ばされて、肋骨を強打。救急車で運ばれるわ、警察で事情聴取されるわで時間を食い、このまま帰宅したんでは試合に間に合わないと判断したわたしは、よく行く料理屋に飛び込んで、持参している携帯ラジオを聴くことに。で、やはりベルギー戦の行方を気にしながら飲んでいるサラリーマンの皆さんに、実況中継をしてあげたのです。元気だな、としか言いようのない41歳ではありました。

その時と比べ、今回は難儀を強いられております。担当医からは「とにかく折った左足は下につけるな」と厳命されているのですが、一人暮らしの身で松葉杖つきっぱなしなんて無理に決まってます。猫の世話もあるし、家事だってしなきゃいけないし、両手を使わず生活するなんて不可能です。松葉杖で都会の雑踏を歩く自信はないからイベントもオンラインで参加させてもらい、通院以外の外出を避けている今日この頃なので、読書は絶好調。いつもの2倍くらい読めているのは、まさに怪我の功名というべきでありましょう。そんな中、ヘンテコ小説が好物なわたしを唸らせてくれたのが、ユーリー・マムレーエフの『穴持たずども』（白水社）と、『翼 李箱作品集』（光文社古典新訳文庫）です。

40がらみの殺人鬼フョードル・ソンノフをはじめ、ガチョウを膣に突っ込むような性的人間や、己の体を食べる自食男、鶏人間、頭でっかちの形而上派グループの面々といった奇人変人が跳梁跋扈する、ぶっ飛び思弁小説である前者。怠惰を愛してやまない徹底的受動態のひきこもり男〈僕〉と、家で売春行為をしている妻の、とても奇妙な生活を小学生の作文のような文体で綴った表題作「翼」を筆頭に、どこか藤枝静男味のある前衛性をまとった後者。

どちらも一時、骨折していること、というか現実全般を忘れてしまうほど、奇妙な素敵滅法界に誘う傑作だったのです。ああ、でも、早く歩けるようになってアリ・アスター監督の新作映画『ボーはおそれている』を観に行きたいYO！（書評家）

マリモクラフト

'24年春夏展示会に1400人来場

「ちいかわ」に人気集まる

トーハングループのマリモクラフトは2月6日から同8日までの3日間、東京・港区のフジテレビ本社24階で、今春・夏にかけた新商品の展示会「Link 2024 SS」を開催した。約50IP（知的財産）の商品を展示し、ファンシー雑貨を扱う雑貨店や書店などの小売店、ライセンサーなど約1400人が来場した。

目玉商品は、「ひらけ！ポンキッキ」をはじめとするフジテレビ系の番組に登場するキャラクター、「ガチャピン」と「ムック」。今回は会場もフジテレビとなり、大々的にアピールした。

とくに人気があったキャラクターは「ちいかわ」。印鑑ケースやペンは文具を取り扱う書店からも注目を集めた。また、「平成レトロ」をテーマにグッズを集積させたコーナーは20～30代の女性から好評で、とくにメディア関係者からの注目度が高かった。

インバウンド需要を見込んだグッズのコーナーでは、昨年11月に映画「ゴジラ－1・0」（東宝）が公開されたこともあり、ゴジラシリーズの怪獣をリアルにデザインしたものが人気だという。

フジテレビ本社24階で

その他、コミック原作のアニメや絵本のIPを活用したグッズなど、書店にお薦めのグッズを紹介する棚も設けた。

同展示会は例年、2月と9月の年2回開催。同社オリジナル商品の他、問屋として扱う他メーカーの商品、OEM（他社ブランドの製品を製造すること）などをアピールしている。

図書館総合研究所ほか

都内でワークショップ

図書館の価値創出めざす

生成AIによる画像化作業

図書館総合研究所、VIVITA JAPAN、VIVIWAREの3社はさきごろ、東京・文京区の超図書館総合研究所でワークショップ「みんなの空想会議」を開催した。小学4年生以上の子どもとその保護者を中心に約10人が参加した。

ワークショップでは、参加者がそれぞれ頭の中にある空想を紙に書き留めて、それをもとに生成AIを使って画像化。新聞記事にして発表した。「夢の世界へ案内するうさぎ」や「空に浮かぶ秘密の図書館」など奇想天外なニュースが架空の媒体「空想新聞」に掲載された。

3社は昨年12月、図書館の新しい社会価値の創出を目指して、パートナーシップを締結。図書館総合研究所と日本出版販売の子会社・ひらくが手がけている超図書館総合研究所を拠点に、「図書館×モノづくり」を軸にした多世代にわたる市民参加型の共創プロジェクトを展開している。

ワークショップは、同プロジェクトのキックオフイベントとして実施された。図書館総合研究所の廣木響平社長は「近年開設した図書館は、本の貸出以外の機能を兼ね備えている。今後の図書館の機能を考えるため、実験の場として様々なことをやっていきたい」と語った。

オトバンク

AIで著名人の声を変換

自社での独占配信開始

オトバンクこのほど、「AI本人オーディオブック」を制作した。第1弾として2月8日から、お笑いコンビ・キングコングの西野亮廣氏の著書『革命のファンファーレ 現代のお金と広告』（幻冬舎）を「audiobook.jp」で独占配信している。

近年、芸能人が熱筆した書籍が増加しており、オーディオブックでは本人が朗読したものを聴きたいという声が多く寄せられている。一方で、収録が長時間に及ぶため、スケジュール調整などにより実現が困難だった。

そのため、同社では㈱Stand.fmと連携。AIによる音声合成技術を導入し、プロのナレーターの朗読を著者の声に変換することで商品化した。

オトバンクでは配信前に先立ち、「audiobook.jp」のユーザー355人に同作品の一部分について、「AI本人オーディオブック」とAIによる西野氏の音声合成で読み上げたオーディオブックの聴き比べを実施。回答者の8割以上が「AI本人オーディオブック」の方が「聴きやすい」と回答している。

全国書店員が選んだ いちばん！売りたい本 2024年本屋大賞

本屋大賞ノミネート

第7回 未来屋小説大賞 第2位

特設サイトはコチラ→ 試し読み、ほか最新情報満載!

公園にいる カバヒコに悩みを 打ち明ける5人——。 心に寄り添う 連作短編集。

誰にも言えない その痛みが リカバリーの先で 強さに 変わりますように。 青山美智子

大丈夫。私たちはきっと、リカバリーできる。

青山美智子 リカバリー・カバヒコ

【第1話】奏斗の頭
【第2話】紗羽の口
【第3話】ちはるの耳
【第4話】勇哉の足
【第5話】和彦の目

公園の古びた遊具、カバヒコに触れると、治したいところが回復するという。 ［四六判仮フランス装］定価1,760円（税込み） イラスト／合田里美

〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6 https://www.kobunsha.com/ 光文社